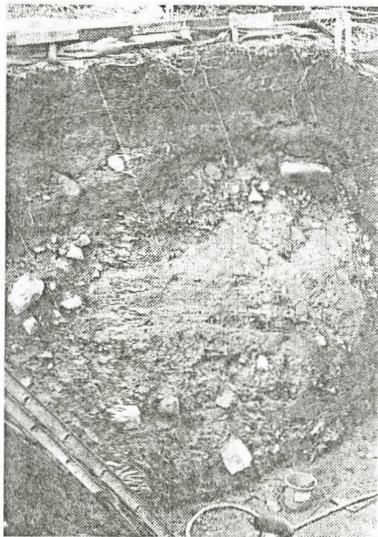


阪神大震



国内最大級の内陸直下型地震
起きた温見断層の調査活動
—平成12年10月、福井県大野町

将来の危

科学のまど

日本の主な活断層



■直前予知は困難では、活断層の直前予知は可能なのか。調査委の長期評価部会長を務める島崎邦彦・東大地震研究所教授は「活断層で地震前に異常が観測されたことはなく、直前予知は困難。地盤のずれの速度が遅いため、前兆があるかどうか」

■直前予知は困難

複数の断層が同時に性が高いとい

う。

杉山雄一・副ヤ

「ひとつ

可能性がある。今

度だけではなく、地

盤を動かす引き金

ている。

人間知能



自分の分身が主人公になるATR知能映像通信研究所のインタラクティブシアター

と背中に取り付けた磁気センサーが動きを察知し、コンピューターがスクリーン上で二人の分身を操作する。

シーケスピアの「ロミオ&ジュリエット」をモチーフにした内容。二人が死んだロミオとジュリエットとなつて、生前、かかわり

が前もって用意してある亡靈キャラクターと「白熱の演技」を繰り広げてしまった。

会話シーンを四百ほど作成。一つのシーンで表示されるセリフも複数用意し、演じる人が選択したセリフを音声認識して適宜、次に表示されるシーンを入れ替える。ユニークなのがロミオとジュリエットの顔の表情が

「二百円の大きさのスクリーンの前で、ベスト状の衣服を身につける。「実際に体験していただこうと思いまして」

こう語るATR知能映像通信研究所の土佐尚子さんと二人で俳優になつた気分で体験したのが、「インタラクティブシアター」。手

レーターが振動で教えてくれる。土佐さんは「観客が主人公を演じる映画を試みてみたかった。演劇と映画がいつよになつたような映画。そういう要素を仮想世界に取り入れようと思った」と話す。

豊かな点。土佐さんは男性五十人、女性五十人の計百人に百種類の単語を怒り、喜びなど九つの感情を込めて計九百回しゃべってみたいるのかニューラルネット

豊かな点。土佐さんは男の高低、時間変化パラメータなどの要素に応じて、亡霊キャラクターなどの要素に応じて、亡霊キャラクターのリアクションも自発的に変わる。

応じてコンピューターが口ミオとジュリエットの画像を制御しているため、セリフを高くして強い声でしゃべりたりすると笑つたりす

て、言葉を九つの感情の種類に分類する方法を開発。こうして入力された言葉に割り当てるなど三、四台のパソコンでシアターを実現できるよう改良を加えている。

言葉から感情を抽出し表情豊かに

「映画監督は物語の設定、舞台など世界観だけを用意する。それを使って観客が自分の見たいように見られるような映画システムができるようになると思う」と土佐さんは話している。(蟠川由彦 yoshi@ed.sankei.co.jp)